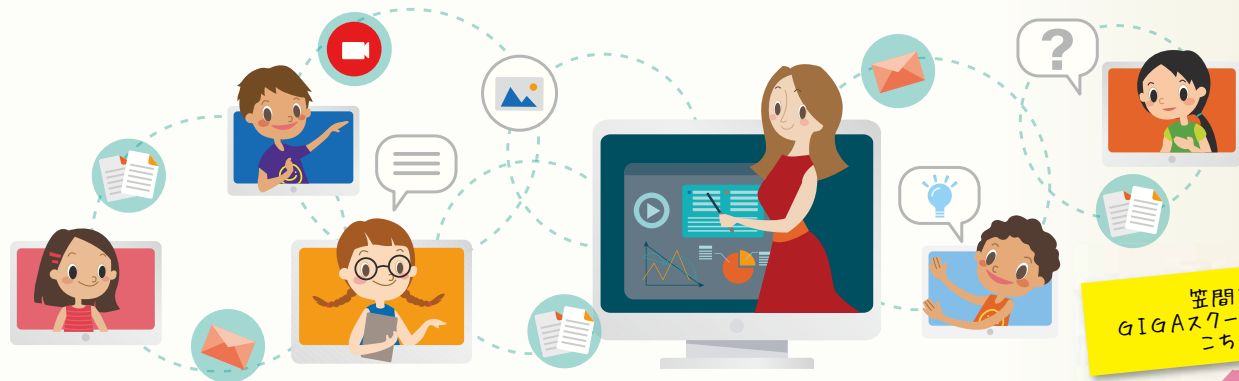




笠間市
GIGAスクール通信は
こちら

笠間市 GIGAスクール が始まります



◆ 市のGIGAスクール構想とは

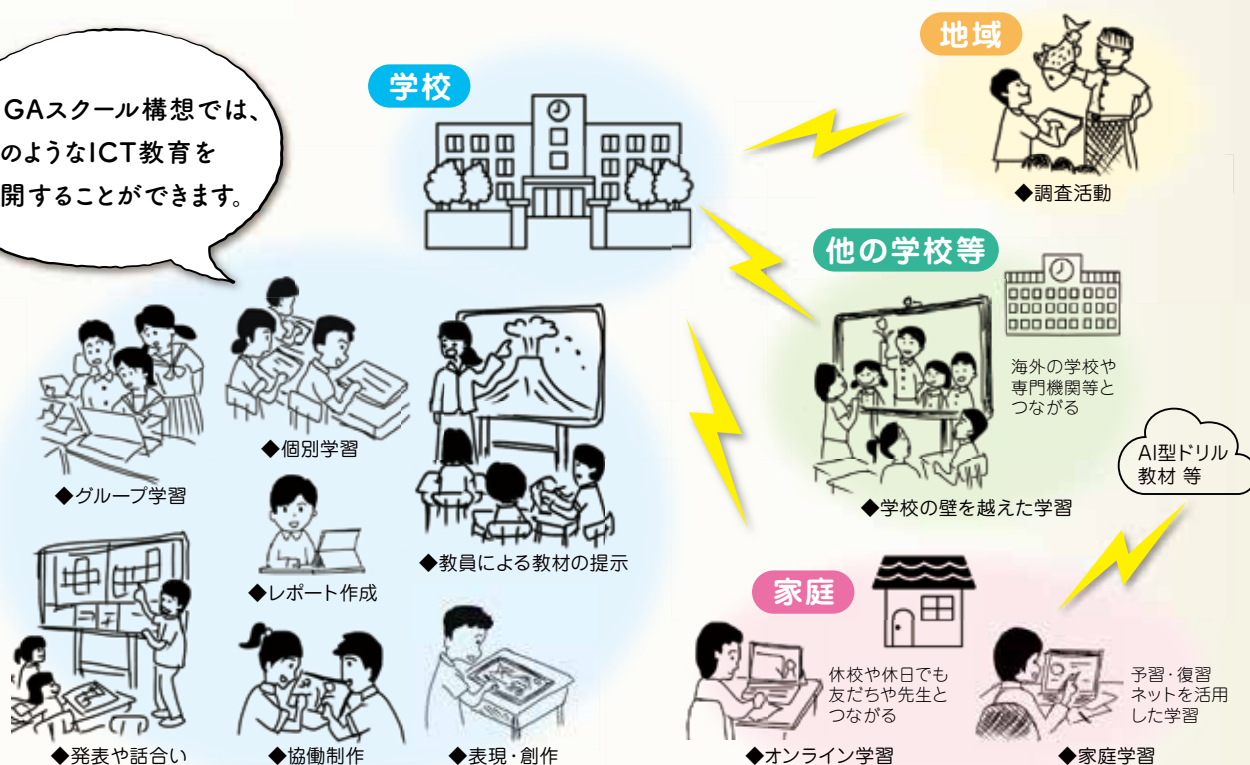
文部科学省が進めるGIGAスクール構想に基づき、市内小中学校、義務教育学校において、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワーク環境などを整備し、「いつでも」「どこでも」「だれとでも」学ぶことができる環境と、子どもたち一人ひとりに適した学びの環境を実現する取り組みです。

◆ 市のICT教育

ICT(Information and Communication Technologyの頭文字)とは、情報通信技術を意味するもので、パソコンや電子黒板、インターネット、学習用ソフトなど、多岐にわたる情報通信技術を活用した教育です。

市では、ICTを「I Create Tomorrow(未来を創る)」ととらえ、子どもたちが未来の創り手となって、未来を力強く生き抜いていけるよう、ICT教育の充実を図ります。

GIGAスクール構想では、
図のようなICT教育を
展開することができます。



GIGAとは、Global and Innovation Gateway for All の頭文字をつなげたものです。
「すべての子どもたちに世界的で革新的な学びの扉を開けよう」という意味が込められています。

端末は、iPadとChromebookに決定！

◆ 小1～小5年生はiPad、小6～中3年生はChromebook！

市が採用する一人一台端末は、小学校低学年でも使いやすいiPadと、協働学習に適したChromebookとし、子どもの成長に合わせて適切な機種を使うように選定。6年生で機種が変わります。

その理由は.....

小中一貫教育でICT教育を推進するため

みなみ学園義務教育学校をモデル校としてスタートした市の小中一貫教育は、「5・4制」を基本としています。5・4制は、義務教育9年間のカリキュラムを5年と4年に区切って編成します。このカリキュラムのねらいを達成するために最適な機種は、小学1～5年生でiPad、小6～中3年生でChromebookであると判断しました。

iPad の特徴

- 起動が速くトラブルが少ない
- スマホと同様の操作性
- 直感的に扱える使いやすさ
- 写真や動画が扱いやすく編集も簡単にできる
- 本体の重さは483gと軽い
キーボードを付けても約1100g程度である
- 教育用の無料アプリが豊富



iPadを使うみなみ学園の生徒

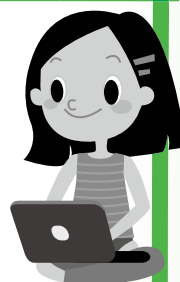


Chromebook の特徴

- アメリカ、カナダ、スウェーデン等では、教育PCとしてシェア1位を獲得
- 起動が速く快適に動く
- バッテリー保ちが非常にいい
- 机からの落下や屋外授業での使用に耐える
堅牢性、耐久性
- 防滴設計のキーボードがついている
- インカメラ、アウトカメラを装備している

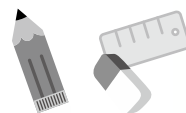


液晶ディスプレイが360°回転し、ノートPCにもタブレットにもなる



◆ 家庭学習が変わります！

令和3年度中には、1人1台端末を貸し出し、家庭学習で使えるようになります。家庭でもネットにつなぎ、次のような学習が可能になります。



予習することで 学習効率を上げる

「いばらきオンラインスタディ」やネット上の教材を使って、予習することができます。

くり返し学んで 知識を定着させる

授業で使った教材や作成した物を、自宅でも利用することができます。

AI型ドリルで 実力をつける

一人一人の理解度に合った問題を出題し、回答内容から問題を解けない原因を自動で見つけ出し、わかりやすいレクチャーで弱点を補ってくれます。また、難しい問題に挑戦することもでき、学年を超えた学習等を行うことができます。

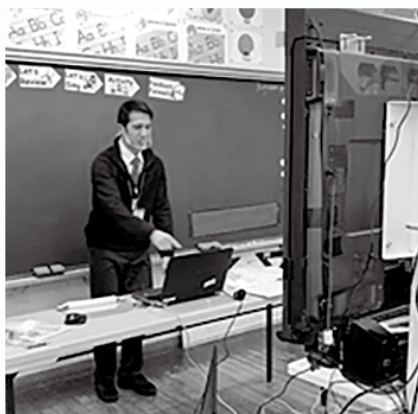
実際の取り組み

◆「遠隔授業」に取り組んでいます！（岩間第三小と岩間中をつなぐ遠隔授業）

1人1台端末を有効に活用した新しい学習様式「笠間スタイル」を進めていて、笠間スタイルの授業の一つが「遠隔授業」です。

離れた場所をネットにつなぎ、映像や音声などのやり取りを行う授業のことで、学校同士をつないだ授業、専門性の高い講師による授業、外部人材による授業など、子供たちの学習の幅を広げることができます。

今年度は、岩間第三小学校に勤務するネイティブの英語教員（ニール・ファニング先生）が、岩間中学校の生徒に向けて、英語の遠隔授業を行っています。



岩間第三小学校・ニール先生

ネット
でつなぐ



岩間中学校・佐藤先生、授業を受ける生徒（左から）

◆ これからの遠隔授業について

教科等の学びを深める遠隔授業

紹介した英語学習のほか、笠間小、稲田小、穴戸小では、遠隔授業で離れた場所や地域の様子を見たり聞いたりして学習しました。遠方にいる専門家等が講師となって授業に参加することで、自校だけでは実現できない専門性の高い学習ができます。

多様な人々とのつながりを実現する遠隔授業

みなみ学園では、台湾の中学生と交流授業を昨年度実施しました。海外や他校との交流授業を行うことで、協働して学習に取り組んだり、多様な意見や考えに触れたりする機会を増やすことができます。

個々の児童生徒の状況に応じた遠隔授業

一人ひとりの児童生徒と教員等がつながることで興味関心に寄り添った指導ができます。特別な配慮を必要とする児童生徒に対して、状況に合わせてきめ細かい支援ができます。



◆ 先生もがんばっています、ICT研修に取り組む！

○ プログラミング教育の研修



令和2年度から、小学校でプログラミング教育がスタートしています。市内の小学校のすべての先生は、令和元年度から2年度にかけてプログラミングの研修を受講し、さらに、2年度は、ロボット教材などを使ったプログラミング研修を実施しています。

○ NHK for Schoolの研修



「NHK for School」とはネットで見ることのできるNHKの教育番組で、授業での活用の仕方研修会が笠間公民館で開催され、各学校から33名の先生が参加しました。

○ 遠隔授業の研修



遠隔授業は、ネットにつながっている状態（オンライン）でビデオ通話を可能にする会議システムを使用して行います。校長先生も率先してICTの研修に取り組んでいて、市内全教職員がZoomの使い方を研修しています。

○ iPadの研修



iPadの研修には130名の先生方が参加し、iPadの基本的な使い方を研修しました。今年1月にはiPadでプレゼンテーションを行う研修を行いました。

子どもたちの学習スタイルが変わる

子どもたちにとって大切な学習道具であるノートや鉛筆に、端末（タブレットやノートパソコン等）が加わります。学習スタイルも、「鉛筆を持ってノートを開いて学習する」ことに、「端末を開いて学習する」ことが加わります。学年が進むに連れて、後者の学習スタイルが多くなることでしょう。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所で端末の活用が日常のものとなっています。子どもたちは、将来どんな職業についても端末と関わっていくことになります。端末を使いこなすことは、言語能力や計算能力と同じように必要不可欠な能力となります。市では、1人1台端末を活用して、未来社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げる教育を推進してまいります。

笠間市教育委員会教育長 いまいずみ ひろし
今泉 寛